



放送大学茨城同窓会会報



ときわ

発行所

放送大学茨城同窓会 (茨城学習センター内)
〒310-0056水戸市文京2-1-1(茨城大学内)
発行人 会長 細川 力
編集 会報編集委員会



情報交換と親睦の場

茨城同窓会会長
細川 力

茨城同窓会が発足して、2年目を迎えた。昨年のつくば宇宙センターでの研修旅行は、折しもH2型ロケットの打ち上げと前後してタイミングがよかった。

テストケースに始めた卒業研究の発表を役員会の前後に行ったが、放送大学在学の集大成といふべきもので内容の濃さを感じた。機会を増やして是非会員にもこの機会を持ちたいと思う

教養は知識の幅と深さに依るところが大きいとされる。放送大学では文化的な知識や専門的な知識を得ることができる。学生の多くは社会人としての経験も多様であり、その経験から多くのことを学びたい。同窓会はそうした情報交換と親睦を深める場でありたいと思う。数少ない行事にみなさんの参加をお待ちしています。

隣組をよろしく

栃木同窓会会長
須藤 國夫

茨城同窓会 1周年おめでとうございます。私は細川さんとは学生の時からサークルを通じての友達で卒業後もお付き合いしております。それが縁で同窓会立ち上げ準備時にお手伝いをした者として嬉しい限りです。そして関東甲信地区では全て同窓会が出来ましたので連合会として形が整い一安心というところです。

私の所属する栃木同窓会 (平成12年 2月設立) と茨城は似ているところが多いと思います。会の設立が新しい、会員が少ない、小会だが連合会の正会員である、母体の学習センターが地方で小さい、等です。共通の悩みや問題点が多いと思いますので協力しあって解決していきたいと考えています。幸いお隣同士なので相互の交流も実施しやすいので、研修旅行の相互乗り入れ、共同企画をしていけたら良いと思います。

連合会については今年度は栃木が幹事役を担っております。小会で担当する場合の負荷や問題点、ノウハウ等が次の小会の参考になればと思います。ご支援お願い致します。

参考に同窓会にそれなりに携わってきた者として一言申し上げるとすれば「気負い過ぎず身の丈にあった活動で良しとする」こと、そして役員の方へは「任意活動であるので高レベルの出力を強要し

ない」ことだと思います。茨城の皆さん隣の栃木をよろしく、そして協力して参りましょう

茨城同窓会の忘年会実施

大川侑希子

2002年11月16日5時30分より岩間町ホテル歌舞伎にてときわの編集委員会、続いて忘年会を実施しました。

始めに、奥センター長より挨拶をいただき、放送大学の現状についてご説明をいただきました。これまでの大学の功績を踏まえ卒業生が風になって知的好奇心のある人たちを見つけ出し仲間にする必要性について感じました。

続いて細川会長、葛貫副会長の尺八の演奏とおいしいご馳走ですっかり五感をリラックスさせていただいてからメンバーの自己紹介が始まりました。この日は面接授業などの関係で人数はあと少しといったところでしたが、それぞれの方の生活が見えて来て共感したり励まされたりしました。

ここにはしっかりと今を生き何事にも好奇心を失わず生きる人たちがいるということを確認することが出来ました。



(奥センター長も交えた忘年会)



(会長、副会長の尺八演奏)

宇宙センタ - 及び筑波実験植物園見学ツアーを企画して

幹事 : 千葉 登、飯塚 儀明

見学ツアーは10時ちょうどに始まりました。始めの15分は宇宙センタ - の現在までの経緯や、これからの衛星利用計画など細部に渡りビデオを中心に説明があった。続いてバスで展示室に移動した。ここでは人工衛星試験や燃焼試験に使われたロケットエンジン、国際宇宙ステ - ションの日本実験モジュール「きぼう」の実物大モデルなど、本物の宇宙開発に触れることができた。

筑波宇宙センタ - 紹介コ - ナ - では、同センタ - は、1972年に設立され、広さは53万㎡で東京ド - ムにすると12個分の広さである。主な役割は平和目的のロケットや人工衛星等の研究、試験、人工衛星の追跡、管制そして宇宙飛行士の選抜、訓練である。ロケットコ - ナ - ではNASDAがこれまで開発してきたロケットの20分の1のサイズの模型が年代順に展示してある。

日本初の純国産大型ロケット「H - 1」は、全長50m、重さ260トンもあり、メインエンジン「LE - 7」はジャンボジェット機のエンジン4つ分の力に相当する。これは、もしも新幹線に「LE - 7」をつけると、東京から大阪まで1分で着いてしまうとのことである。それではなぜそれを新幹線では使われないかということ、あまりにもエンジン音が高いので実用には無理とのことである。ここでは燃焼試験で使われた実物の「LE - 7」エンジンを見ることができた。この「H - 1」を更にシンプル低コストに進化させたのが、日本の最新型ロケット「H - A」である。つい先日「H - A」3号機が、種子島宇宙センタ - から打ち上げられたのが記憶に新しい。人工衛星コ - ナ - では、NASDA最初の人工衛星「きく一号」から「おりひめ ひこぼし」までの人工衛星の試験モデルが展示してあり、人工衛星の歴史を見ることができた。

国際宇宙ステ - ション・コ - ナ - ーでは、国際宇宙ステ - ションをパネルと模型で紹介していた。世界16ヶ国が参加している国際宇宙ステ - ションは、1998年に建設が始まり2006年に完成予定となっている。重さは、約450トン、大きさは公式サッカー・フィールドと同じ大きさである。40回以上に分けて各パーツを打ち上げ、宇宙空間で宇宙飛行士が組み立てるのである。次に日本実験モジュール「きぼう」コ - ナ - である。国際宇宙ステ - ションの一部となる日本の実験研究室「きぼう」が実物大のモデルとして展示してある。この展示室をあとにして、いよいよ今回の目玉である宇宙ステ - ション試験棟に移動した。高度400kmの地球周回軌道上で建設が進められている多目的、恒久的有人施設の宇宙ステ - ションでは様々な実験や観測が長期に渡って行われる。日本でも独自の実験モジュールである「きぼう」をもって参加する。この「きぼう」は2004年、スペ -

スシャトルに載せて宇宙に運び、組み立てられる。「きぼう」の大きさもスペ - スシャトルの運ぶ限界が有るので制限される。続いて宇宙ステ - ション運用棟を見学した。この建物には「きぼう」の運用管制室があり、「きぼう」が打ち上げられた後、この部屋において、24時間体制で運用管制する。全体のシステムや、実験装置の運用、「きぼう」から送られてくる情報の管理を行う。また宇宙飛行士との交信もここで行われる。

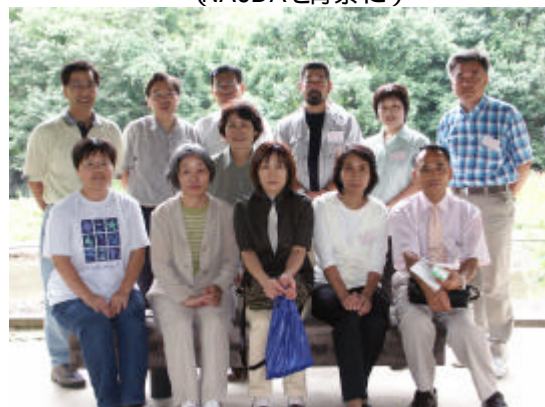
最後に宇宙飛行士が着用する宇宙服の実物を見た。宇宙服は何層にもなっていて放射線や隕石などから身体を守っている。背中には酸素などを背負い、最高8時間まで活動できる。宇宙服の値段は1着13億円である。宇宙服は、オ - ダ - ・メ - ドではなくMLLなど標準化になっており、このサイズが入らない人は、宇宙飛行士にはなれない。宇宙飛行士になるためには、(1)健康であること、(2)協調性が有ること、(3)英語力が有ることの3点である。何日間も同じメンバーで、閉鎖的空間に置かれるため一番重要なのは協調性があることであると言った説明があった。

午後のスケジュールに入る前に、宇宙センタ - 厚生棟にて、細川会長の挨拶の後、自己紹介をしていただいた。最後に宇宙センタ - の前で記念写真を撮り宇宙センタ - をあとにした。

午後は、筑波実験植物園内の広場にて、昼食を摂りながら今後の予定(人生計画)や、大学院の様子などを真剣に話していた。その後園内に入り、日本の主な植物や生活に関りのある植物などが見られた。見学の途中、休憩場所にて、記念写真を撮り思い出として残した。



(NASDAを背景に)



(筑波実験植物園にて)

ボケ対策の10年間

中澤 純

昨年10月、同窓会に入会させて頂きました。70歳のジジー(昭和7年生まれ)がと、いささかめらいはありました。

私のいかに加減な学習歴など、全く参考にはならないと思いますが、会長さんからの依頼もありましたので……。

私にとり、退職しての最大の危惧は「ボケ」の事でした。そこで、退職1年前(元教員)専ら「ボケ防止対策」目的で、社会と経済専攻3年次に編入学、以来、生活と福祉、発達と教育、昨年9月末、人間の探求専攻卒を最後に、学部での学習を打ち切りました。

また、数理系の2専攻が残りますが、私は数理系全クギブアップ。昨年10月から大学院修士科目生で、現在2科目受講中です。

私の場合、調子が出始めたのが2年目からで、4年間程好調が続き、以後息切れしてレポート提出、提出しても未受験と不調続きで10科目ほどボケになりました。放送大の場合、単位加算性があり、私の場合、好調時の取得単位加算で、4度卒業できたに過ぎません。

放送「大学」ですから、放送授業が生命ですが、私の場合、ほとんど受講せずにレポート提出前、試験直前の教科書学習のみ。夏場は専ら雑多な庭木の剪定やら、畑の草取り、野菜作りで、? 聴不能、機械音痴で録画、録音七面倒臭く、昭和ヒトケタ、天然記念物です。

百数十の受講科目も間口が広すぎ、これといった専門も無く(卒業研究未取得)ボケ防止になったものの、情けない次第です。

大学院は、総合人間学、教育文化論の2科目を現在受講中、学部も異なりややこしい感じです。また、授業料も学部の倍と高すぎると思う。継続申し込みはしたものの、次々回から学部選科履修生に鞍替えを思案中です。

試験も間近お互いがんばりましょう。

生涯学習の実践

藤田 喜久男

私は、新制中学卒業と同時に村役場に就職、翌年水戸一高通信制に入学した。当時の役場職員は、元教員、元巡査、元陸海軍兵、台湾、満州からの引揚者など、ほかに村長、助役、収入役、二十歳代から六十歳代の大人達の中に十五歳で飛び込んだ。職場環境は厳しく、通信教育は教科書と簡単な参考書、答案用紙は白紙が多く何頁から何頁まで記入し、計算の上何月何日まで提出せよ、といった調子で続かず挫折。それだけでなく昭和二十四・五年頃は食糧事情はもとより、生活環境など総じて戦後の混乱が続いた時期だった。

昭和三十年町村合併で町職員となり、役場は大所帯になった。まず、ガリ版(謄写版)の技術を向上しようと孔版を受け、次に書道の通信教育を受けた。その後、町の機構改革で地元公民館の一人勤務になった。絶好の機会と翌春、自宅の新築工事を開始するとともに、NHK学園高校に入学、当時私は三十六歳、協力校の水戸一高に四年間、土曜、日曜日に通学した。二十歳前後の若者と体育の実技も行った。この間、定通制高校卓球大会に水戸一高代表として参加したこともあった。

その後、放送大学の構想が生れたが、オイルショックなどで大変遅れて開設された。当時私は社会教育課兼中央公民館勤務、土曜・日曜・夜間にも仕事があつて挑戦できず、税務課に異動後、五十五歳の誕生日を迎えるに当たって、永年の夢が叶って入学した。土曜・日曜日を単位認定面接授業日に当てたが、当時は完全週休二日制ではなく、臨時議会が入るとその日は流した。

卒業までの七年九ヶ月の間は、総務課への異動、母親の死、定年退職、東京第一をはじめ各学習センター通いなど喜怒哀楽、過ぎ去ってみれば楽しさが一番であった。

茨城学習センターが開設され、生涯学習の機会が与えられたことに感謝しながら再入学、現在三枚目の卒業証書を目指し、去る一月末の単位認定試験を受け、ほっとしているところである。

最初の卒業から茨城学習センターに再入学の間、中国語講座・囲碁講座の通信教育を受け、ふと振り返ると環境にも恵まれた、生涯学習の実践だったようである。

二年目を迎えた茨城同窓会

茨城同窓会会長

細川 力

茨城同窓会の発足は思いがけず人材に恵まれて、順調に滑り出しています。昨年9月の研修旅行はつくば宇宙センターと実験植物園でした。失敗が続いたロケットの打ち上げに再起をかけたH2型の成功で宇宙センターの見学はタイミングがピッタリでした。実験植物園は心と体を解きほぐし癒してくれるたくさんの山野草、植物が広大な敷地に水辺、野山、乾燥、高温多湿と草や樹木が入り組んでいて、会話はリラックスできて良かったと思います。

このような研究機関は料金が安くてあまり負担にならないので、大いに活用しようと思います。茨城はこうした研究機関がたくさんあります。今回の研修旅行も企画の段階から楽しみです。もちろん学習センター主催の研修旅行も相互乗り入れできます。昨年は日光方面でした。

現在会員数は44名で小規模です。

(次ページへ)

会員間の意思の疎通と交流を兼ねて昨年の忘年会は岩間町で奥学習センター長にも参加していただき大学との意見交換ができました。次回は夫子方面を予定しています。

同窓会は放送大学の卒業という共通の認識に立ちながら、一方、社会人としての多様な経験をお持ちの方が沢山いらっしゃいます。そうした情報交換と親睦を深める場でありたいと思っています。

卒業に際しての感想

井下 義雄

私が放送大学に入学したのは、平成十二年十月の時でした。専攻は「産業と技術」を専攻しました。入学した時の目標は平成十四年十月の卒業の二年でしたが、自分の能力が足りず、半年遅れの平成十五年三月卒業となりました。卒業時期の目標は達成できませんでしたが、卒業という目標は達成し、一つの区切りができたので、満足しております。

放送大学での私の学習スタイルは基本的には学習センターに行って、視聴し、テープを借りて自宅学習をするというものでした。放送大学なのに放送という手段を一度も活用しませんでした。なぜ学習センターに行って学習したかと言うと、地理的に恵まれていたというのもあるのですが、主たる理由は学習控室が利用できることでした。学習控室は平日の夕方から夜にかけては、ほとんど人が来ないので、落ち着いて新聞や雑誌を読んだりまた自習室としても利用できたので、よく利用させてもらいました。

卒業に向け、一番苦心したのは、外国語でした。専門学校を卒業しての3年次編入でしたので、入学時は外国語は既修得単位として認められてませんでした。英語を学習するにしても高校以来、数年ぶりであり、かなり努力を必要としました。

何かと苦勞しながらも卒業ができ、この度同窓会に入会させて頂きました。放送大学は他大学に比べ、人的交流の機会が少ないのでこういった場があることは、よい刺激となるのではないかと考えています。同窓会のみなさん、どうぞよろしく願います。

茨城同窓会のホームページ公開

この度、茨城同窓会のホームページを皆様のご協力で、開設することができました。

これから、皆様の情報を頂きながら内容の充実を図ってゆきたいと存じます。

URL :

<http://www.it-doctor.jp/dousokai/>

(サイト管理者 葛貫 壮四郎)

茨城同窓会メールリストのご案内

会員同士の情報交換のために、メールリストを開設しております。メールアドレスをお持ちで、まだ、登録されていない方は、副会長までメール下さい。

メール先 : 葛貫壮四郎(ja1mgo@ybb.ne.jp)

講演会と総会の案内

日時 : 平成 15年 4月 27日 (日) 午後 1:30から

場所 : 茨城学習センター テレビ室

講演会 : 講師 奥 達雄先生

演題 「 未定 」

総会審議事項

・平成 14年度活動報告について

・平成 14年度収支決算、監査報告について

・平成 15年度活動計画 (案)

・平成 15年度収支予算 (案)

その他

総会后、懇親会を開催します (場所未定)。

72年に一度の金砂神社磯出大祭礼

会員のホームページに、紹介されておりましたので、お知らせします。

山口さんのページ :

<http://www.kasumigaura.net/yamaguchi/reportage/page/A0002.html>

井下さんのページ :

<http://www.kasumigaura.net/inoshita/kengaku/page/A0009.html>



編集後記

同窓会機関紙「ときわ」第2号を発行することができました。原稿をいただいた関係各位に感謝申し上げます。皆様からの原稿をお待ちしております。(S.K)